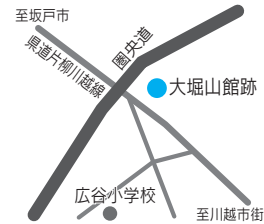


戦国時代の木臼（大堀山館跡第三次調査）

県指定史跡である大堀山館跡は、下広谷に位置する戦国時代の城跡です。市教育委員会では、大堀山館跡の内容確認のため、発掘調査を実施しています。

第三次調査では本郭の調査を行い、整地した面の下から堀や井戸などが発見され、大堀山館の本郭の構造に変遷があったことが分かってきました。今回紹介する木臼は本郭の南端で発見された、深さ約四メートルの素掘りの井戸底から出土しました。この木臼は高さ約七センチ、最大径四センチ、胴の中ほどでくびれを持つ豎臼で、松の丸太を削って作られています。実際に使用されていたもので、底の部分は磨り減っていて真ん中は窪んでいます。日本では胴にくびれを持つ豎臼と豎杵は、弥生時代から江戸時代中ごろまで使われていました。現在、餅つきで使われる胴臼と横杵は、江戸時代中ごろ以降から使われるようになったようです。



戦国時代の木臼

実用されていた戦国時代の木臼は、全国的にも非常に出土例が少なく、貴重な発見です。他では、ミニチュアの木製豎臼を井戸の廃棄埋め立て時に入れていた事例が確認されています。今回の臼は、井戸の埋め立ての祭祀で埋められたものと考えられます。

市税納期のお知らせ

6月は、市県民税第1期の納期です。

忘れずに納めましょう。

問い合わせ…収税課収税管理担当
TEL224-5686

世界の国から、こんにちは！



カンボジア／ヌオ・キニンさん

出身は、首都のプノンペンからバスで4時間くらい離れたバットアンバン州で、海が近く漁業が盛んな街です。小さいころは、近くの海岸へ泳ぎに行ったり、作物の収穫を祝うお祭りに参加したりするのが大好きでした。

カンボジアでは日本語を話せる人が少ないので、日本の大学への留学を決めました。これから、川越のまちづくりや、日本の優れた企業活動について勉強したいです。将来は貿易会社を設立して、日本との交流を持ちながら、母国のために役立ちたいと思っています。

*外国籍市民の皆さんを対象にした相談は、23ページをご覧ください。

国際交流課・TEL224-5506

川越市立診療所の
休日急患・小児夜間診療を再開

休日急患診療は、6月28日(日)から
小児夜間診療は、6月29日(月)から
通常どおり診療を行います。

なお、新型インフルエンザに対応するため、平日
午後の一般診療は、引き続き休診とします。
問い合わせ：市立診療所・TEL224-2648